

#### ○景観を探る 4. 「千葉県野鳥図鑑-水鳥編-」

講師：桑原和之（千葉県立中央博物館）

2011年6月4日（土）於：千葉県立中央博物館 講堂 時間：13:00～14:00

身近な水辺と言えは最初に水田、川、湖などが思い浮かぶのではないでしょうか？今回の講座では、身近な水辺である水田で生活する水鳥を中心に紹介したいと思います。

水田では、サギやクイナの仲間も生活しています。サギの仲間は、水田などの湿地で見られます。千葉県では、コウノトリやツルの仲間はあまり見られませんが、白い羽根のサギたちは、たくさん見られます。ダイサギ、チュウサギ、コサギが主な種ですが、よく見ると頭が亜麻色（あまいろ）のアマサギなども畔で採食しています。ツルに間違えられる大きなアオサギも水田などで見られます。湿地では、サギだけではなくクイナの仲間などの水鳥たちも生活しています。

水田や河川などの湿地では、ダイサギ、チュウサギ、コサギなどのサギたちが見られます。湿地の近くの林では、サギたちは集団で繁殖することがあります。この集団繁殖地をコロニーと呼んでいます。繁殖期、コロニーにサギたちは集まっていますが、秋から冬期は、夜間、集団でねぐらをとります。かつては、多かったコサギでさえ減少してしまいました。1970年頃までアオサギはあまり見られない種でしたが、近年、数が増えたようです。

クイナの仲間はツルに類縁の近いグループです。クイナの仲間でも普通に見られるバンは、水田や湿地に多く、オオバンは池や湖で見られます。かつて、湿地に多く、普通に生息していたクイナの仲間は少なくなりました。夜間、普通に聞かれたヒクイナの声も今は、あまり聞くことができません。普通に見られていた留鳥のバンも少なくなりました。江戸期には、ツルの仲間も千葉県で越冬していたようです。湿地の減少に伴い水辺で生活する野鳥たちの数が減少したのです。水田で普通に見られていた水鳥たちがいなくなるかもしれないのです。

博物館では、野鳥の生活を観察しながら、彼らの生息状況などの情報を集めてきました。その情報から千葉県内で普通に見られる水鳥たちを選び、みなさんに紹介いたしました。ただし、生息環境の悪化などで普通に見られていた水鳥たちも減少しています。数が増えている水鳥は少ないと言えます。絶滅が危惧されている水鳥も多いのです。